



## 駒ヶ根市 2050 カーボンニュートラル宣言

地球温暖化が原因とされる気候変動によって、環境への深刻な影響が指摘されています。

2021年11月、COP26（国連気候変動枠組条約第26回締約国会議）で採択されたグラスゴー気候合意では、世界的な平均気温の上昇を1.5℃以内に抑えることが目標として定められました。

また、IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）の報告書では「2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロとすることが必要」とされています。

我が国でも、2020年10月に、政府が「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、翌年4月には、2030年度までの温室効果ガス削減目標を2013年度比で46%削減とすることが発表されました。

これに先立ち、長野県では、2019年12月に「2050ゼロカーボンへの決意」と併せて、都道府県初となる「気候非常事態宣言」を発出し、県内全ての市町村が賛同しております。

当市は日照時間が長く、中央アルプスや南アルプスの山々、千畳敷カールを彩る高山植物などの自然環境と、豊富な水資源に恵まれています。また、半世紀ぶりに発見されたライチョウは、環境省の事業により100羽を超え、定着することが期待されています。

こうした自然豊かな駒ヶ根市を未来へ引き継ぐため、気候変動対策に取り組むことは私たちの責務であり、昨年4月に策定した第5次総合計画では「カーボンニュートラル推進」を重点プロジェクトとして掲げました。

住民・事業者・行政が一丸となって脱炭素に向けた意識を共有し、行動できるように、長野県、国と連携を図り、2050年における二酸化炭素排出を実質ゼロとする「2050カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言します。

令和5年（2023年）6月2日



駒ヶ根市長

伊藤 祐三